



明見湖近くの徐福像
(富士吉田市小明見)

富士吉田市小明見にある徐福像は徐福がここ富士吉田市に最終的に到達し、機織り、養蚕などの技術を伝えたことを記念して建てられています。

「甲斐絹（かいき）」は山梨の織物として知られています。江戸時代に誕生したものと言われますが、甲斐国から「甲斐絹」と命名されたのは明治時代です。しかし、富士吉田市を含む富士山の北麓は千年以上前から織物が盛んでした。この技術を伝えたのが、中国からやってきた徐福であったと伝えられています。



徐福雨乞地蔵祠
(富士吉田市小明見)

徐福像の隣に建つのが徐福雨乞地蔵祠

この祠のある小明見地区には龍神伝説が残っています。ここより西へ少し歩いたところに明見湖があり、かつては湖であったのが、富士山の噴火によって埋まってしまい、小さな池のようになったと言われています。ここに龍神が住むと言い伝えられており、村人たちは五穀豊穡を願って雨乞いをした所でもあるのです。湖畔に明見龍神社もあります。



太神社 (富士吉田市小明見)

上の祠から東へ100mほどの所に小山があります。民家の横を通り、細い道を行くと太神社の鳥居が見えます。そこから石段を上ると徐福祠の前に至ります。